

令和5年度特定鳥獣保護管理検討会（第1回）

日時：令和5年10月25日（水）午後2時から

場所：愛知県自治センター5階 研修室

（1）令和4年度愛知県特定鳥獣保護管理検討会における意見と対応について

（構成員）センサーカメラについて、試験的に実際に使ってみたところはあるか。また、使用されていた場合、どんな動物が写っていたか。

（事務局）今回、初めて被害報告のあった春日井市に確認したところ、センサーカメラを畑の近くに設置した結果、カモシカが確認されたため、カモシカが加害獣であろうと判定したと伺っている。

（2）令和5年度市町村実施計画（カモシカ）の策定について

（構成員）農業被害額について、前年度からだいぶ金額が落ちているとのことだが、もう少し具体的に伺いたい。野菜のところでの被害額が減少していると説明があったが、具体的に被害が減ったというのはどういう作物が関係しているのか。

（事務局）野菜の内訳で大きく金額が変わったところは、キュウリは1/6に減少、ナスも大きく減っている。

（構成員）野菜の被害額のブレが大きいと説明があったが、これは農家の方が、作付けする野菜の種類を変えて、被害が出ないように努力をされていることもあるのか。

（事務局）そこまでは確認できていない。その可能性も考えられるが、捕獲や防御対策により効果が挙がっており、被害が出なくなっていることもあるかもしれない。実際に豊田市で設定している捕獲団地について、見直しがされているので、そういった対策の効果も出ていると考えている。

（構成員）わなによる錯誤捕獲の事例はあるのか。

（事務局）2, 3年前にシカのわなにカモシカの錯誤捕獲があり、捕獲従事者が放獣しようとした時に逆襲に遭った事故があった。その後、錯誤捕獲があったときには市町村から県の方に報告していただくよう依頼している。今年度については、小牧市さんで1件あったと伺っている。おそらく、1年単位で見ても数えるほどしかなく、顕著に増えてきている、減ってきているという話はない。

（構成員）事故の再発を防ぐために指導している点があれば、伺いたい。

（事務局）県で作成したマニュアルではないが、岐阜大学が作成されたマニュアルを小牧市の事例の際に提供させていただいた。

（構成員）錯誤捕獲について、カモシカ以外の動物もよくかかるか。

（事務局）県が発注している指定管理鳥獣捕獲等事業では、錯誤捕獲があった場合は報告をいただいている。

- (構 成 員) 有害鳥獣捕獲の錯誤捕獲の情報について、義務化するのは大変かもしれないが、継続的でないにしろ、何らかの形で、収集してもいいかもしれない。実際には現場で適当に処理されているケースも相当数あるかもしれない。
- (事 務 局) 環境省の方でも錯誤捕獲について問題視されているようで、そちらの動きにも注視して、対応できることを対応していきたい。
- (構 成 員) 設楽町が設定している捕獲団地について、一部廃止しているが、廃止の根拠を教えてください。
- (事 務 局) 林業被害については、比較的植林した直後に被害を受けやすく、ある程度森林が成長してくると被害を受けにくくなるという傾向がある。ある程度森林が成長した地域は捕獲団地から外すなど、被害と植林等の状況を踏まえて見直しをされたと伺っている。
- (構 成 員) 今回、説明いただいたのは3市町だが、その他の管理区域内の14市町村はどのような状況か。
- (事 務 局) 捕獲については、原則侵入防止柵等の防御対策を実施したうえで、被害が軽減できない地域で、やむを得ない場合に実施するとしている。今年度、管理区域の市町村に実施計画の策定について依頼し、捕獲の意向を示したのが3市町であった。
- (構 成 員) 農業被害については、カモシカよりシカの被害の方が多く、カモシカの被害は全体的に少ないという状況。林業被害についてはカモシカによる被害がまだあるという状況。
- (構 成 員) 愛知県ではカモシカの分布域にシカ、イノシシが生息しているところがほとんどである。いくつかの場所で、獣種ごとにセンサーカメラの撮影頻度などでデータを収集するとともに、現地周辺での捕獲状況を確認し、被害軽減の効果を見てみると、その地域で重点的に対策を実施すべき獣種が見えてくると思う。今後はそういったアプローチも必要になってくるのではないかと。
カモシカの個体群管理の考え方についても、あるべき状態についても今後、検討が必要になってくると思う。
- (事 務 局) 検討させていただく。
- (構 成 員) 被害防除の視点から特定の種に限定せずに目を向けていくということが重要であることは同意見である。今回説明のあった中で、カモシカの総数はおおむね横ばいである一方で、生息地は拡大している現状について、これが生物学的にどういった状況であるか不明であるが、今後の計画改定のタイミングでは、生物学的な視点も踏まえた検討が必要であるのではないかと。
- (座 長) カモシカについて、かつて生息場所の中心は森林であったが、豊田市のようにいわゆる平地に来た時に、その繁殖構造や生息状況がどのようなになっているか、例えば、親子の個体が目撃されているなど、状況はどうか。

- (事務局) そういった情報を収集しているか一度確認させていただく。
- (構成員) 愛知県でも妊娠状況の確認をされているので、そういったデータもないわけではない。それをちゃんと見ていくことだと思う。
- (座長) 平地のように餌資源が多い地域では妊娠率が高くなるなど、森林と異なる傾向が見られる可能性もある。
- (構成員) 高原の草地の方に拡大しているカモシカについて、社会構造が変わってきているという報告があり、環境が変わるとカモシカも繁殖能力等が変わる可能性があるかもしれない。今後はこういったことを踏まえる必要があるかもしれない。
- (座長) 今回の計画の中では捕獲団地がかなり変更されており、これは以前から指摘されていたことで、定常的に同じように捕るということでなくて、いわゆる被害が出る団地というのは変わってくるのではないかと、そこを見直してやっていくべきだという意見を踏まえ対応した結果になっていると思う。

○議題(3) その他

- (構成員) センサーカメラを使用して調査をされている方に、行政でできる範囲も踏まえて、できることを相談してみてもいいかもしれない。センサーカメラの活用も、せっかく収集したデータが無駄にならないためにも調査設計と解析をどのようにやるか検討してから、実施するとよい。
- (構成員) 農業被害額について、各種データを収集し、解析すれば、その結果を踏まえて農家の方々に気を付けるべきことも話がや支援ができるので、継続いただきたい。